

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2015.11.No219

11月号

目次

被災地応急支援特別委員会 活動報告	1
技術ノート(CPD認定教材)	2
道士会の動き	4
J5団体紹介(JABMEE)	5
青年・女性の窓 【青年委員会】	6
支部だより 【後志・恵庭・美幌】	7
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>



“天災は忘れた頃に来る”

被災地応急支援特別委員会 副委員長 池田浩司(札幌支部)

“天災は忘れた頃に来る”この言葉 誰もが聞いたことがあるのではないのでしょうか？言い出したのは寺田寅彦という物理学者で随筆家、そして「防災」の名付け親で「防災科学の父」と言われた方だそうです。

2011年(平成23年)3月11日14時46分18秒、その時皆さんは何をしていましたか？マグニチュード9.0、最大震度7、死者・行方不明者18,465人、建物半壊・全壊399,767戸、ピーク時避難者40万人以上という想像をしていなかった観測史上最大の地震東日本大震災が起きた時です。皆さんは「えっ」「まさか」「そんなことが」などと思ったことでしょうか。そうです誰もが忘れていたのです。過去に関東大震災や近年では阪神淡路大震災があり、特に阪神淡路大震災も想像を絶する出来事で大丈夫と思っていた高速道路や建物が崩壊し、これ以上の天災はしばらく起きないと思っていたのです。しかし、寺田氏曰く、「その時」が来てしまったのです。

北海道における近年の地震についても平成5年1月の釧路沖地震(M7.8)、同年7月に死者201名を出した北海道南西沖地震(M7.8)、平成6年10月の北海道東方沖地震(M8.1)、平成15年9月の十勝沖地震(M8.0)と平成になってから大きなものが起きています。皆様にはこれらの教訓を忘れず「天災は忘れた頃に必ず来る」といつも準備しておいて頂きたいと思います。

そして、皆様既にご承知のように建築士会では天災が来てしまったからの対応として職能を活かした「震災建築物応急危険度判定」を行っています。北海道建築士会でも、旧まちづくり委員会、そして準備委員会を経て現在被災地応急支援特別委員会にて連絡網の整備や応急危険度判定の机上訓練などを実施しています。ここで直近の動きをご紹介します。



1. 小樽支部での机上訓練実施(10月3日)

この訓練では、24名の参加者があり、小樽市公会堂で開催されました。この訓練では北海道建築士会で用意した災害時用ベストを着用し、実際の雰囲気演出して行われました。訓練は木造とRC造にて実施し、「危険度」「被災度」「損傷度」等の判断基準を再認識したものとなりました。

応急危険度判定士の資格更新期間が5年ということで、誰もが更新時に教育を受けた内容が薄らいでいるということで、これらの机上訓練は定期的に行うことで有意義なものとなります。

2. 応急危険度判定士認定講習会の講師実務研修会参加(10月7日)

この研修会は北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会が主催となって行われ、判定士認定講師の要請研修会であり、各行政が主体となる全道各協議会と北海道建築士会(参加者4名)にて応急危険度判定の制度及び技術実務について行われました。

3. 宗谷支部での机上訓練実施(10月17日)

以上のように当委員会では、これからも机上訓練や、応急危険度判定士の連絡網への登録も随時行っていくしますので皆様のご協力をお願いいたします。

高断熱窓の技術開発について

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部

北方建築総合研究所 環境研究部環境グループ 研究職員 遠藤 卓

1. はじめに

国内の家庭及び業務部門におけるエネルギー消費は全部門の3割以上を占め、その割合が高まってきています。これまでも様々な削減対策を講じてきましたが、なかなか減少傾向に転じないのが実態で、建築分野ではさらなる削減努力が求められています。寒冷地である北海道では、暖房用エネルギー消費の割合が高く、その削減が急務です。

2. 窓の高断熱化の重要性

住宅の暖房用エネルギー消費を削減するためには、住宅から逃げる熱を抑えることが有効な対策の一つです。

特に窓は、他の部位に比べ、熱貫流率が高く（図1）（すなわち断熱性能が低く）、住宅全体の熱損失のおよそ3割を占めます（図2）。また、コールドドラフトや冷放射の発生により、室内の温熱環境を不均一にする原因となることから、高断熱化の重要性が高い部位だと言えます。

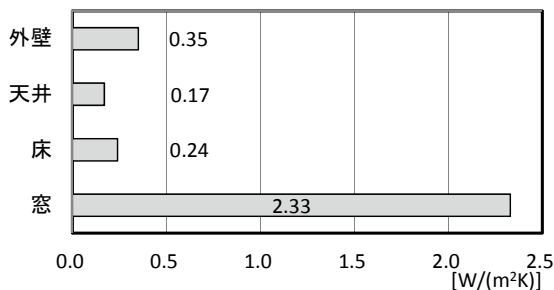


図1. 躯体と窓の熱貫流率の比較
（省エネ基準仕様¹⁾・北海道（1・2地域）の場合）

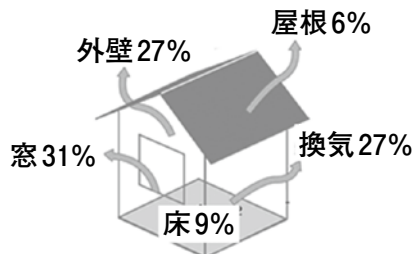


図2. 住宅の熱損失の割合
（省エネ基準仕様¹⁾・北海道（1・2地域）の場合）

3. 北海道の窓の断熱性能の現状

道内の新築住宅（2012年の戸建住宅と2011年の共同住宅）を対象に断熱仕様等について、当研究所が調査した結果²⁾によると、標準的な窓の仕様は、フレーム材が樹脂又は木材で、空気層厚さが12mm以

上の二層複層ガラスにLow-E加工を施し、アルゴン(Ar)もしくはクリプトン(Kr)ガスを封入したものでした(表1)。省エネ基準の設計施工指針では、1.9W/(m²K)に相当する窓仕様です。

近年、窓の高断熱化は進んできました。しかし、他の部位から比べると依然、断熱上の弱点となっており、高断熱化の余地があると考えられます。

表1. 道内の住宅用窓仕様の調査結果

(a) フレーム材とガラス構成

フレーム材	ガラス			戸建住宅 (2012)	共同住宅 (2011)
	層数	LowE	ガス		
樹脂 又は木	二層	なし	空気	1.4%	17.3%
		あり		4.0%	17.3%
	三層	Ar 又は Kr	85.5%	47.5%	
二層	8.5%		-		
アルミ	二層			-	8.2%
その他				0.6%	9.8%

(b) 空気層厚さ

空気層厚さ [mm]	戸建住宅 (2012)	共同住宅 (2011)
6	0.7%	4.7%
12	68.3%	95.3%
16	27.5%	0%
18	1.0%	0%
その他	2.5%	0%

上記結果は棟数ベースの割合。棟数は各事業者の代表仕様にて、アンケートに基づく事業者の新築棟数を乗じて求めた。

4. 高断熱窓の技術開発

昨年度、当研究所は、株式会社エクセルシャノン、倉敷紡績株式会社、中島硝子工業株式会社、東電化工業株式会社と高断熱樹脂サッシ窓の開発に関する共同研究を行いました。ここで、簡単に紹介させていただきます。

4. 1 研究の目的

国内の窓製品の現状での最高水準は、熱貫流率0.8W/(m²K)程度です。さらに断熱性能を高めるためにどのような技術が必要か、それが実現したときに住宅の暖冷房負荷にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的として研究を行いました。

4. 2 高断熱化のための技術要素の明確化

海外製品の調査、数値計算及び実験を実施し、ガラス部やフレーム部において高断熱化に有効な技術要素を検討しました。その結果、複層ガラス内の中空層への低放射フィルム挿入、フレーム内の断熱材

充填、フレーム内面のメッキ処理等が特に有効であることを明らかにし（図3）、それぞれが窓の断熱性能に及ぼす影響を把握しました。また、これら要素技術の組み合わせによっては、熱貫流率 $0.6W/(m^2K)$ 以下も可能であることを数値計算によって確認しました。

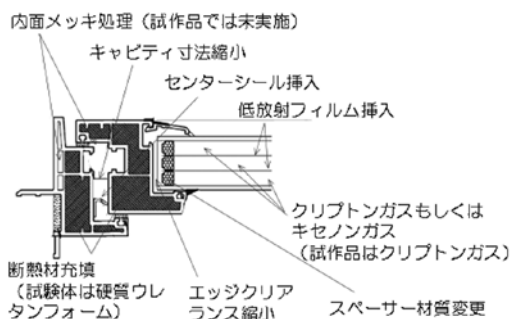


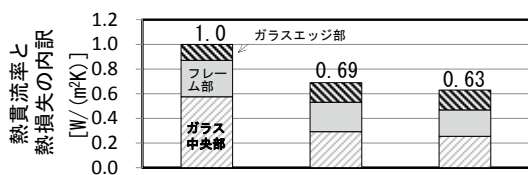
図3. 高断熱化のための技術要素

4.3 試作品による検証

製造方法やコスト上の課題を考慮し、製品化を見据え現実的な技術要素を段階的に盛り込んだ試作品を製作しました。性能試験を行い（写真1）、最終的には熱貫流率 $0.63W/(m^2K)$ を確認することができました（図4）。



写真1. 断熱性能測定の様子



	試作品1	試作品2	試作品3
ガラスの構成	ガラス3枚	ガラス2枚	フィルム2枚
ガラス内ガス	アルゴン 11mm厚	クリプトン 8.5mm厚	クリプトン 10mm厚
ガラスエッジ スペーサ	樹脂	ステンレス	
断熱材充填	なし	硬質発泡 ウレタンフォーム充填	
エッジクリア ランス	4 mm		3 mm

表記は代表的な試験体条件。その他項目においても試作品ごとの改良がある。

図4. 試作品による性能検証結果

4.4 暖冷房負荷削減効果の試算

道内外の主な都市で、暖冷房負荷の削減効果を計算しました（図5）。札幌では省エネ基準仕様から開発仕様への転換で暖冷房負荷を13%削減が可能という試算結果となりました。

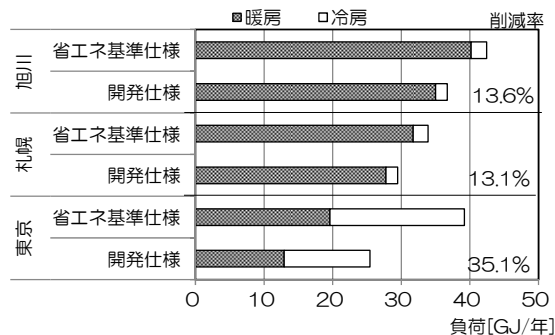


図5. 暖冷房負荷削減の試算例

4.5 共同研究後の展開

本研究で示した窓の高断熱化のための技術要素の一部は特許申請を行い、株式会社エクセルシャノンから発売される今後の窓製品に活用される予定です。

5. 今後に向けて

これまで、住宅断熱化の弱点となる窓は、寒冷地の住宅デザインに制約を与え、住宅を閉鎖的なものにしてきました。高断熱窓の技術開発や普及によって、窓が弱点ではなくなっていくことが期待されます。また、窓は日射を取り入れる部位として、暖房負荷を削減できる可能性を持っています。ただし、高断熱住宅では、冬期の日射によってオーバーヒートが発生しやすく、躯体蓄熱などによって、日射熱をより有効に使っていくような、設計上の工夫が必要で、こうした点も併せて提案していくことが今後の課題です。

さらなる窓の高断熱化は、北海道の住宅をより開放的に、住宅デザインをより自由なものにしていくと期待されます。また、窓の高断熱化技術によって、北海道の住宅にどんな新しい可能性が生まれるか、設計者のみなさんと考えていければと思っています。

【参考文献・参照情報】

- 1) 国土交通省国土技術政策総合研究所監修：平成25年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法及び解説Ⅲ住宅の設計施工指針、2015.5
- 2) 立松宏一ら：持続可能な地域のための住まいづくりに関する研究 その13 北海道の新築住宅の断熱・設備仕様調査、日本建築学会北海道支部研究報告集（86）、pp.229-232、2013.6

CPD自習型認定の設問はp8にあります。

表彰関係

10月30日開催の第58回建築士会全国大会（石川大会）、また、9月19日開催の第40回全道大会（紋別大会）の式典において、今年の日建建築士会連合会会長表彰者、北海道建築士会会長表彰者の表彰式がそれぞれ執り行われ、賞状が授与されました。

永年にわたり、本会の役員として、会の発展に功績してくださった表彰者の皆様をご紹介します。

【(公社)日本建築士会連合会会長表彰者】 (敬称略)

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
旭川	仙座 猛	旭川	石井 幸	空知	金子 守
恵庭	石塚 隆幸	北見	古屋 昌廣		

【(一社)北海道建築士会会長表彰者】 (敬称略)

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
札幌	柳山美保子	札幌	東 道尾	札幌	辻野 浩	恵庭	澤田 實
石狩	佐藤 壽治	函館	亀田 隆史	函館	工藤 悟	函館	藤島 浩一
檜山	成田 司	小樽	辻 勇司	室蘭	成田 勝宏	苫小牧	久保 勉
北空知	佐藤 賢治	旭川	重綱 博美	旭川	富田 正樹	旭川	中原 暁
十勝	小野寺一彦	十勝	関根 功二	釧路	北島多美子	根室	佐々木 悟
中標津	塩田 良夫	網走	姫野 康彦	北見	山田 郁雄	北見	野嶋 祐司
美幌	長嶋 幸雄	紋別	佐々木隆之	紋別	小田 清二	宗谷	佐賀 秀二

受賞おめでとうございます。

一級建築士設計製図試験見学会の開催

(一社)北海道建築士会 事務局長 鈴木 功一

目的 一級建築士製図試験受験者を支援するため
日時 平成27年9月12日(土) 13時～17時
課題 「市街地に建つデイサービス付き高齢者向け集合住宅（基礎免震）」
参加者 58名
見学建物 イリス南郷（デイサービス付き高齢者向け集合住宅）
 マザアス札幌（高齢者向け集合住宅）
 伊藤110ビル（基礎免震対応ビル）
講師 伊藤組土建(株) 西岡設計部次長
 丸谷設備係長

見学内容

今年の課題は、若い人にはあまり馴染みのない課題であり、これまで経験してこなかった知識と技術が求められる建物で、本物を見て勉強する機会を作りました。イリス南郷では、始めに施設使用者から使い勝手等について説明を受けた後、設計者からデイサービスの3点セット（浴室、デイサービス室、食堂）の他介護ルームや設備の考え方等について説明を受け、その後4班に分かれ施設内を見学しました。（小松理事長他職員一同様有難うございました）マザアス札幌は、バスの中で平面図を説明し外観を見学、伊藤110ビルでは、地下の免震装置を見ながら講師より説明を受け、最後に、参加者からお礼の言葉をいただき解散しました。



景観まちづくりパネル展 & プチセミナーが開催されました！

北海道と協働による景観づくりに取り組むため、今年3月に北海道より指定を受けた「景観整備機構」のパネル展とプチセミナーが開催されました。

開催場所 北海道庁本庁舎1階
〈パネル展〉 平成27年9月24日(木) 9:00～17:00 9月25日(金) 9:00～17:30
 現在まで行ってきた活動のパネル30点を展示

〈プチセミナー〉

「建築からの景観まちづくり」 講師：まちづくり委員長 佐藤 芳則
 講義概要：建築の視点からの景観まちづくりについて、北海道建築士会が取り組んでいる地域の歴史的な建造物等の調査や委員会活動など、事例をまじえて紹介。建築士会のPRも行った。



社会に求められる建築設備技術者に

一般社団法人建築設備技術者協会北海道支部長 里中 雅幸

●建築設備技術者協会とは

一般社団法人建築設備技術者協会は、平成元年に建設大臣より社団法人の許可を受けて設立された団体です。建築士法に基づく国家資格者である「建築設備士」及び公益社団法人空気調和・衛生工学会「設備士」そして「設備設計一級建築士」を中心とした会員を擁する高度な建築設備技術を備えた専門家の職能団体です。

その中で中心的な役割を担う「建築設備士」は、建築士に対して建築設備の技術的アドバイスを与える技術者として法的に位置付けられており、当会に登録することにより資格者として認知され、高い評価を得て全道各地で活躍しています。大規模建築物や特殊な建築物など、高度な技術と豊富な経験が要求される建築物の設備設計においては、そのほとんどが「建築設備士」によって設計・工事監理が行われています。

そして、この高度な技術を有する「建築設備士」は、建築設備の各専門領域のスペシャリストとして、電気の専門家、空調・衛生の専門家、環境の専門家という位置付けで、実際に担当する領域の計画・設計段階、工事監理段階にて、法に適合した高品質な建築設備に仕上げていく役割を担っています。

●JABMEE CPD

当協会は、平成15年4月より継続職能開発(CPD)制度として「JABMEE CPD」をスタートさせました。

これは建築設備技術者が常に自己研鑽と最新の技術の習得に努めることをサポートし、その実績を社会にアピールすることを目的としており、多数の方々に参加しています。このうち、特に専門領域に長け、技術に対する真摯な倫理を有する建築設備士の方を「JABMEE SENIOR」の称号を与え、認定しています。

私たち建築設備技術者協会の会員は、この「JABMEE CPD」により更なる技術向上を目指し、常に最新技術の習得と経験を重ね、少しでも良質な建築物の生産に努め、社会に対してより快適で合理的な生活環境を創造するとともに、地球環境の保全に大きな力を発揮できるものと自負しております。

なお、この「JABMEE CPD」は、いつからでも参加が可能です。

●環境負荷対策

協会として、会員の技術研鑽と地球環境負荷低減への具体的活動を重点テーマとして掲げております。特にCO₂削減に向けて建築設備技術者として今できることから行動する、組織的運動を展開しています。

また、低炭素社会の実現に寄与した建築物を表彰するために「カーボンニュートラル賞」創設しました。この賞は、会員各位が関係する建築設備に関連する業績に対し、その実現に向けた活動を表彰することを通して、更なる低炭素化へ向けた意識の浸透を図りカーボンニュートラル化社会の構築に寄与することを目的としています。

●協会の活動内容

北海道支部では研修会・施設見学会等の開催、情報の収集及び提供、行政関係機関等への協力及び提言等を行っており、全国では技術の進歩改善に関する調査研究、国際交流、技術書及び機関誌の刊行等を行っております。

その他以下の事業を行っております。

・建築設備士の日

建築において環境づくりに貢献する建築設備士を一般市民に知ってもらうため、11月18日を「建築設備士の日」と定め、全国で記念事業を企画開催しています。

・設備女子会

女性設備技術者の情報交換・発信・活躍の場となる「設備女子会」を運営し、建築設備業界で働く女性技術者同士の親睦を図っています。

・建築設備技術遺産

建築設備技術の進歩、発展において重要な成果を残した技術を認定するため「建築設備技術遺産」の選定を行っております。

●J5の活動

JABMEE CPDの資格はまだ認知度が低く、取得者も伸び悩んでいるのが現状です。J5の活動を通して、少しでも業界や社会にこの資格の必要性・重要性を知ってもらうことが必要があると考えます。

青年委員会

苫小牧支部、道南ブロックの活動について

道南副ブロック長

永井 裕史 (苫小牧支部)

私が建築士会に入会したのは8年ほど前で、当時は建築士会の活動内容も把握しておらず、初めて参加した苫小牧での全道大会でも何をして良いかわからずにいたのを記憶しています。

現在では僭越ながら道南副ブロック長、苫小牧副青年委員長、本部青年委員など様々な役職をいただき、ブロック協議会、青年の集いや全道大会など様々な行事に参加することが多くなってきました。名前を憶えていただいている方も多く、会社で営業をしている身としてもうれしい限りだと思っています。

さて、前述した行事には懇親会がつきものですが、その後2次会・3次会の場でなぜか偶然(笑)その場に初対面の女性がいて、必ず聞かれることがあります。

『お仕事ですか?』
この問いにいつも困ってしまいます。

私の所属している苫小牧支部では植栽活動、清掃活動、苫小牧工業高校の生徒を対象に卒業設計コンクールを開催するなど、地域貢献活動に力を入れています。また、不定期ではありますが会員によるソフトボール大会など会員の健康維持にも気を遣って活動しています。



苫小牧支部 植樹活動

さらに道南ブロックでは、年3回のブロック協議会が行われています。回数的には他のブロックと変わらないと思いますが、違うのは支部の数が少ないということ。室蘭・函館・日高・桧山・そして苫小牧の5支部で構成されているため、開催サイクルが早く、各支部準備が大変な中で様々な企画を立てて協議会を開催しています。座学や工場見学、施設見学などを中心に、建築士としての知識・経験のアップを目指して日々活動しています。



道南ブロック協議会研修会～室蘭港見学～

また、今年は札幌で行われていた建築士の日のイベント『お仕事体験』を函館でも行い、参加した子供たちは皆、楽しそうにブロックで家を作ったり、駄菓子を買ったりしていました。建築士会のPR活動、地域貢献活動としてこのイベントを今後のブロック活動の中心となるものに育てていければと思っています。

現在、苫小牧支部としても会員の減少が進んでおり、この活動を通して未来の建築士会員を一人でも多く増やしていきたいと思っています。



建築のお仕事体験イベント in 函館

支部が少ない道南ブロックは協議会に参加するメンバーも固定さ

れてきます。そのため団結力は強く各行事、懇親会などでも皆様も周知の事実かと思えます。その強さは北海道4ブロックの中でもトップクラスではないでしょうか。

話を戻しまして、

『お仕事ですか?』

この問いについてですが、もちろん『仕事』ではないですが、かといって『遊び』でもない。これまでに述べたように支部・ブロック・青年委員として様々な行事に参加し、また企画することで様々な経験を得てきました。さらに、建築士会員として活動していく中で仲間を得ることができました。会員は士会に参加することで、建築士としてのスキルアップだけではなく人間性も向上させているのだと思っています。『仕事』ではなく、『建築を趣味とした集団』なのではないでしょうか。

この経験は私自身とても大事なものだと思っています。大学を卒業した後は職場以外で利害なく接することができる仲間を得ることはなかなか難しいと思います。

このように参加している会員にとっては多くのメリットがありますが、会員減少が進んでいます。また、会社の理解がなければ、スケジュールを空けることが難しいこともあります。建築士、会社にアピールを行い建築士会の活動を知ってもらうこと。そして個人、会社にとってメリットがあることを知ってもらい、会員増加につながる活動をしていくことが、今後の課題だと考えています。

入会した当時は若いと言われていましたが、青年として活動できる年数も片手で数えるほどになってきました。今後はこの建築士会の魅力を伝え、苫小牧支部、道南ブロック共に、これまで以上に勢いのある活動を行っていきたくと思っています。

後志支部

倶知安×建築士会 ～小さなまちの出来事が全国へ発信～

青年副委員長
傳法 直也



建築士会全国大会にあわせて、全国建築士フォーラムin石川が開催されます。そのなかで地域実践活動発表会というものが行われ、私が北海道を代表して発表してきます。発表の内容は5月16日に倶知安で開催した青年建築士の集いをテーマにしたものです。ご参加いただいた皆様の声と倶知安の良さ、道民建築士の活動を全国にアピールしてきたいと思います！

実際にいろんな活動を通じて感じるのは参加する側と開催する側では大きな違いがあるということです。集いの開催を少ない人数でこなすことは大変な苦勞でしたが、達成した時の解放感もひとしおでした。なにより、仲間と協力して得られた一体感は何ものにも代えがたい体験だと思いました。

今度は全国に向けて後志、道央ブロックが一体となって取り組んでいます。今は準備段階なので苦勞していますが、この記事を読むころには解放感に・・・ムフフ。

建築士会ってなんだろう？何の

為にやってるんだらう？参加するのも面倒だし、大変なことはしたくない。と思っている幽霊会員の皆様！幸せの一步手前は辛いものですよ。建築士の資格を取った時もそうじゃなかったですか？一步踏み出して、苦勞しましょう。

そしていろんな方々と出会い、感動し、またそれをいろんな人に伝達し、また違うものに参加してスキルアップしていきましょう。一緒にやってみてほしいと思った方は是非倶知安町に来てみてください。

恵庭支部

恵庭支部設立50周年「記念誌」の創刊について

事務局長
伊藤 隆英



昭和38年石狩支部恵庭分会が設立以来、平成24年で50周年を迎えるにあたり、記念事業と記念誌の創刊を理事会において決定し、50周年記念事業として平成24年5月12・13日の2日間、恵庭市職業訓練センターで、「住宅新築&耐震・リフォームセミナー」を開催した。その後、全道大会などがあり、やっと3年目で「記念誌」の編集資料のとりまとめができた。

その写真などの資料は、ダンボール箱2個となり、アルバムから使用する写真の枚数も何百枚となりそのデータ整理に何ヶ月もかかった。今回の記念誌は、恵庭支部で初めて創刊するものであり、第1章「設立50周年に寄せて」として歴代分会長・支部長の挨拶文を掲載し、第2章「支部50年の歩み」として回顧録、写真集（通常総会・キャンプ・ゴルフ・ソフトボール・雪んこまつり）、Historyあのとときとして、第17回全道大会（石狩大会）、分会設立30周年記念式典、恵庭支部設立記念式典、

第38回全道大会（恵庭大会）などを掲載。第3章「未来へつなぐ」として激励の寄稿文、地域貢献活動、青年部「座談会」などを掲載するなど編集校正が徐々に出来上がってきており、総頁数が60数頁におよぶものと思われませんが、最終校正までには、まだまだ数ヶ月はかかりますが、恵庭支部50周年の集大成の「記念誌」となるよう頑張っております。（乞うご期待を・・・）

創刊は次年度の「春」にしたい！と考えておりますが・・・。

美幌支部

建築士について

理事
高橋 広明



建築士とは、何ぞや？例えば就職し忙しい毎日を過ごす中、合間の時間に寝る間を惜しみつつ勉強しようやく資格を取得した。これでやっと同じ職場の資格取得済みの先輩達と対等に責任を持ち設計業務に従事することが可能になる。はたして目的はそのために取得しているのだろうか？どうも様子がおかしい。建設関連企業に就職したなら、取得してあたりまえ。

設計業務に携わることがなくとも取得しているにこしたことはない。

そこが問題なのかもしれない。純粋に設計を旨としている者と、そうではない者の目的意識が違いすぎるのではないだろうか。私の町では今から20年程前の時代は、資格取得とともに建築士会に入会し個人はもとより、企業間としてのコミュニケーションを図るうえでの大きな役割を建築士会が果たしていた。しかし時代は大きく変化し、現在では各工法団体、地域ごとによるグループなど実益にダイレクトに結びつく団体等が数多

くある。少人数の工務店などは特に意欲的に参加していてそこで会社スタッフのスキルアップについての議題もあがるが、そのスタッフが建築士（有資格者）であるかどうかの話題になることは極めて稀である。建築士あつての建設関連企業であることに変わりはないのだが、建築士に対しての尊敬、社会的地位をいかにして向上させて行くことが出来るかがこれからのさらなる新しい時代への鍵となることは間違いない。

道士会の動き

道本部の主な会議報告 (10月)

- ◆道南ブロック会 (苫小牧市開催)
(開催日) 10月3日(土)
- ◆道東ブロック会 (北見市開催)
(開催日) 10月9日(金)
- ◆道北ブロック会 (名寄市開催)
(開催日) 10月26日(月)
(上記会議議題)
 - 1) ブロック会での会長等候補の推薦について
 - 2) 各委員会委員の推薦について
 - 3) 全道大会 (室蘭大会) について
 - 4) 全国大会 (北海道大会) について
 - 5) 景観整備機構について
 - 6) 監理技術者講習会について
 - 7) 会員増強について
- ◆第3回女性委員会小委員会
(開催日) 10月13日(火)
(議案)
 - 1) 平成28年女性委員会事業計画・予算について
- ◆第2回地域貢献活動センター委員会
(開催日) 10月13日(火)
(議案)
 - 1) 「札幌ハルニレプロジェクト委員会」申請の活動助成について

道本部の主な行事予定 (11月)

- 2日 第3回まちづくり委員会WEB会議
- 7日 第3回総務委員会
- 7日 第2回青年委員会WEB会議
- 13日 道央ブロック会
- 24日 四役会議

関係機関等会議出席状況 (11月)

- 18日 建設系CPD協議会シンポジウム 高野会長出席

情報委員会 オススメイベント

平成27年北方建築総合研究所研究成果報告会

11月6日(金) 10:30~17:00
かでの2.7 1階 かでのホール
(札幌市中央区北2西7)

問合せ先 北方建築総合研究所 0166-66-4218

編集後記

今年も早いもので、あと2ヶ月となりました。何かと忙しくなる季節ですが、会員の皆様はいかがでしょう？さて今月は応急危険度判定活動の特集です。天災は忘れたころにやってくるという格言があり、地震をはじめ、台風などはその被害の恐ろしさを忘れた頃に再びやってきます。建築士会は応急危険度判定活動等で社会に貢献できるものと信じています。

情報委員 熊谷 智

CPD認定プログラム(10月認定)

- ◆平成27年北方建築総合研究所研究成果報告会
(日程及び会場) 11月6日(金) 10:30~17:00
かでの2.7 1階かでのホール(札幌市)
- 《単位数》 第1部(研究報告) 午前:2単位 午後:2単位
第2部(特別報告) 1単位
- 《問合せ先》 北方建築総合研究所 TEL 0166-66-4218
- ◆アテネ・バルテノン+スウェーデンとデンマークの水辺の建築
(日程及び会場) 11月14日(土) 14:30~16:30
小樽市民センター研修室(小樽市)
- 《単位数》 2単位
- 《問合せ先》 北海道建築士会 TEL 011-251-6076

CPD 自習型認定研修の設問

P2-P3 技術ノート
(高断熱窓の技術開発について)

北海道建築士 No.219

2015/11/ 1 単位: 1

設問 「熱貫流率」に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

- a. 躯体や窓の断熱性能の指標値であり、内外温度差1℃あたり、単位面積あたり、単位時間あたりに損失する熱量である。
- b. 材料の熱伝導に関する指標値であり、厚み1mの材料で、単位温度差が生じた際に、単位時間あたりに伝導する熱量である。
- c. 窓の日射熱取得性能の指標値であり、垂直に入射する日射量に対する、透過及び対流によって室内に侵入する熱量の割合である。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。



会誌「北海道建築士」 CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- ①CPD情報システムにログインをします。
- ②士会用メニューより「認定教材研修申請」を押します。
- ③CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- ④プルダウンメニューから「北海道建築士」を選択します。
- ⑤設問への解答を選択します。
- ⑥入力後、「次へ」を押します。
- ⑦確認画面より「申請する」を押し、完了です。

注) 不正解の場合は登録できません。

情報委員会委員長/神田 光英
副委員長/斎藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利
委員/高松 徹・熊谷 智・柳山美保子
鈴木 雅人

北海道建築士 No.219号

印刷 平成27年10月/発行 平成27年11月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番